

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	中央図書館及び博物館改修事業				会計	款	項	目	大事	小事
政 策	O3	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）				主管課	図書・博物館			
施 策	3-1	いつでも、どこでも、誰もができる生涯学習の推進		主管課長	小栗 信一郎					

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	図書館・博物館利用者	意図	利用者の安全を図る。
事業内容	昭和53年に開館以来、老朽化した博物館ハロゲン化物消化設備の修繕・図書館エレベーターの更新を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和53年に開館以来、老朽化した博物館ハロゲン化物消化設備・図書館エレベーターの不具合発生が心配されており、できるだけ早く改修が求められている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名 称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）			
	①				円					
	②				円					
	③				円					
	④				円					
	⑤									
	⑥									
指標で表すことができない定性的な成果					目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）					
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度	図書館・博物館利用者の安全を図るために、図書館エレベーター・博物館ハロゲン化物消設備更新・改修を行った。						
事務事業の総コスト(a=b+c)			33,642,270							
事業費（b）(円)			27,732,240							
うち一般財源			27,732,240							
職員給与費(c)(円)			5,910,030							
人役・職員(人)			0.84							
人役・再任用(人)										
人役・臨職(人)			0.21							
人役・嘱託(人)										
初期投資コスト（円）（建設又は取得年度のみ記入）										
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）										

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価 必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性 効率性	目標達成度	A 達成できた
	市関与の必要性	A 市が担うべき		対象者の適切性 コストの削減	A 対象者は適切である A 削減の余地はない
総合評価	I 拡充	（事業を拡大して継続すべき）			

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	図書館・博物館利用者が不安・不快に感じることがないよう、安全な設備として保全する。	③取組における課題(Check)	さらなるバリアフリー化や施設の経年劣化に伴う修繕を進めていく必要がある。
②H30に実施した取組(Do)	博物館ハロゲン化物消化備の修繕・図書館エレベーターの更新を行った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	個別施設修繕計画を進める必要がある。